

# フロンティアAI時代に求められる セキュリティリスク可視化戦略

サイバーインシデントは情報漏えいにとどまらず、経営に直接影響するリスクへ拡大しています。AIの進化により、攻撃者は侵入しやすい弱点を短時間で探し出せる時代です。

**重要なのは「どこにリスクがあり、どこから優先的に対策すべきか」を把握することです。**



## リスク可視化の3領域



人

従業員の人的リスクと  
アカウント漏えい



システム

外部公開資産と脆弱性



サプライチェーン

委託先・リスク

## リスクの優先順位付け

## リスクベースの対策

### なぜ「リスクの可視化」が必要なのか

フロンティアAIの進展により、攻撃者は短時間で大量の標的を探索し、侵入成功確率の高いポイントを狙うことが可能になりました。一方で企業の予算や人材には限りがあります。

そのため重要なのは、どこにリスクが存在するかを把握し、優先順位を付けることです。

電通総研では、リスク発生源を「人」「システム」「サプライチェーン」の3領域に整理し、リスクの可視化とリスクベースの対策を支援します。

### こんなお悩みはありませんか？

- |                                             |                                           |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 何から優先的に対策すべきか分からない | <input type="checkbox"/> セキュリティ教育の効果が見えない |
| <input type="checkbox"/> 情報漏えいリスクを把握したい     | <input type="checkbox"/> 外部公開資産を管理できていない  |
| <input type="checkbox"/> 脆弱性対応の優先順位が分からない   | <input type="checkbox"/> 委託先リスクを継続監視したい   |
| <input type="checkbox"/> SCS評価制度への対応が必要     | <input type="checkbox"/> セキュリティ人材が不足している  |

# 電通総研のアプローチ

## 01 人的リスク

### 課題

- 従業員のフィッシング耐性が見えない
- 漏えいアカウントを把握できない
- 教育効果が測定できない

### ソリューション

- KnowBe4
- AironWorks
- KELA

### 成果

- ヒューマンリスク可視化
- 教育運用の効率化
- 情報漏えい対策の強化

## 02 システムリスク

### 課題

- 公開資産の全体像が見えない
- 脆弱性管理が追いつかない
- クラウド設定ミスがなかなか不安

### ソリューション

- ULTRARED
- AeyeScan
- CloudBase

### 成果

- 攻撃対象領域の可視化
- 脆弱性の優先順位付け
- 継続的な監視

## 03 サプライチェーンリスク

### 課題

- 委託先のセキュリティ状況が見えない
- 第三者リスクを評価できない

### ソリューション

- SecurityScorecard
- Panorays

### 成果

- 取引先リスクの可視化
- 継続モニタリング
- 制度対応の支援

## 04 横断するセキュリティ戦略支援

### サービス

Cyber Crisis 360

SCS評価制度支援

Cyber Crisis 360 主な支援メニュー

リスクアセスメント

サイバーBCP支援

インシデント演習

SOC要員支援

危機管理広報支援

フォレンジック支援

### 成果

セキュリティガバナンス強化

リスクベースアプローチの実現

サイバーレジリエンス向上

戦略から可視化/対策まで、  
電通総研が企業のサイバーレジリエンス向上をご支援します。

### お問い合わせ

株式会社 電通総研

<https://security.dentsusoken.com/contact/>



※記載の会社名、製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。記載内容は予告なく変更する場合がございます。

※当コンテンツの無断使用、転載はご遠慮ください。

**Your Security**